

2007年5月25日

CRTガラス生産能力の削減について

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、2005年から3年間の中期経営計画“JIKKO-2007”の重点施策の1つとしてCRTガラス事業の収益改善を掲げ、継続的に事業縮小を実施してきていますが、今般、シンガポール及びタイのCRTガラス生産拠点において、本年6月末までに製造窯を停止することを決定しました。

CRTガラスの需要は、パソコン用、テレビ用ともにTFT液晶等へのシフトが急速に進んでいる影響を受け、2006年度の約200百万本から2007年度の約120～130百万本へと大幅に減少する見込みであり、販売数量減少に加え、販売価格下落、原燃材料費高騰などにより、当社のCRT事業の採算は悪化しています。

当社は、これまでもCRTガラスの需要減少に伴い、日本国内、インドネシア、台湾からの生産撤退等の諸施策を実行してきましたが、今後もCRTガラス需要の減少が予想されることから、今般、さらに生産体制の再編を実施することとしました。今回の再編では、シンガポール（旭テクノロジー社、パネル製造窯：1基）及びタイ（サイアム旭テクノグラス社、パネル製造窯：1基、ファンネル製造窯：1基）での生産を全面的に停止し、当社のCRTガラス生産能力を約40%削減します。これにより当社のCRTガラス生産能力は最大であった2004年と比較し、約70%の削減となります。

当社のCRTガラス事業は、中国、韓国において、パネル及びファンネルを生産する体制となります。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

（担当：斎藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp）

<ご参考>

1. 会社概要

(1) 旭テクノビジョン社

- イ.所在地 シンガポール トアスアベニュー
- ロ.代表者 藤田 三喜男
- ハ.資本金 121百万シンガポールドル
- ニ.出資比率 旭硝子100%
- ホ.生產品目 CRTガラス(パネル)

(2) サイアム旭テクノグラス社

- イ.所在地 タイ王国 チョンブリ県
- ロ.代表者 杉山 孝
- ハ.資本金 1600百万バーツ
- ニ.出資比率 旭硝子100%
- ホ.生產品目 CRTガラス(パネル、ファンネル)

2. CRTガラスの構成

CRTガラスは、画面が映し出される前面の「パネル」、その背後のじょうご型をした「ファンネル」及び電子銃を収納する「ネックチューブ」の3部品から構成されています。

